

件名	H30 第3回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会		
日時	2018年10月9日(火)19:00~20:30		
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館2階大会議室		
出席者 (敬称略)	(委員10名)遠藤公章、石沼友、朝日田卓朗、尾川寛信、西田貴頼、澤志任、中尾輝夫、 田嶋昭彦、坂田克、石井美佳代 (コーディネーター(Co)) 地域活性化伝道師 澤田廉路氏 (オブザーバー) ・県中部総合事務所地域振興局 山口リーダー、米原係長 ・地域おこし協力隊 鳥山隊員 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 仙賀副町長、遠藤室長、谷岡主事		
			計17名
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	協議会会議レジュメ、泊地域小さな拠点検討協議会第3回会議宿題まとめ、泊地域将来人口推計		

1. 会長あいさつ

(会長) 少し早いようですが、みなさんお揃いになりましたので、今年度、第3回目の小さな拠点協議会の方を開催したいと思います。前回からコーディネーターに入っていて、いろんな部分で、見える形で動けるようになったと思います。引続き我々では分からない部分が沢山ありますので、リードしていただいて、進めていただけたらと思いますので、よろしくお願い致します。

2. 泊地域の強み・弱み・チャンス・ピンチまとめ、小さな拠点のテーマ、内容の検討

(Co) それでは、遅い時間ですので、早めに決めて閉めたいと思います。今日の目的は、テーマ、キャッチフレーズ、例えば、施設を作ろうと思った時に、どういうテーマでやるのか、どういう施設にしたいのか、やはり、テーマを決めないといけないと思います。だからそういった意味で強み・弱み・チャンス・ピンチを出してもらったのは、それを考える大きなヒントになります。これは、みなさん宿題をまじめにやっていただいて、そこに事務局に書いて貼ってもらいましたが、あとそれを見ながら、いろんなことを発想して、テーマとかキャッチフレーズを決めてもらいましょう。これが今日の最大のミッションです。それが決まらない事には、どういう施設を作ったらいいのか、という方向性が見えません。どういう施設にして、誰をターゲットにするのか、というような事も視野に入れながら、テーマを決めていただきたいと思います。みなさんの宿題がそこに貼ってありますので、逆に質問しますので、ここに書かれた方、どういう想いで、強み・弱み・チャンス・ピンチを書かれたかという事を、後でお聞きしたいと思いますので、よろしくお願い致します。今日はそういう事で、前回の皆さんの宿題を基にして、テーマを絞っていきたいと思います。よろしいでしょうか。

(会長) はい。

(Co) 前回役場に寄らせてもらって、泊村史を借りて、それから窓口にあった、ゆうゆう、ゆりはま冊子を見ました。村史の方は、やっぱりちょっと疲れましたが、ゆうゆう、ゆりはま冊子はすごく参考になりました。何人か載ってますけど、文章も写真もいい、これに書いてある素敵な女性たちに会ってみたいと思いました。これは、地域のまさに良いところが書いてあるんです。例えばこういう物を作っているとか、魚にしても野菜にしてもとても美味しい物ですよ、とか、大事に作ってますよというような事が書いてありますので、これはとっても良い参考資料になります。こういう物を1つのヒントとして、ここに書いてあるものを極端に言えば、売れる施設にすればいいんです。こういうのを見ながら、私が思ったのは、西瓜でもとまり美人、泊漬け、初めて知りましたつわぶきの佃煮とかね、そういった物をうまいこと組合わせて、そういう物が売れる所を作ったらいいのかなど、もう1つは、ジェラートを親子でやってる、これは泊じゃないかもしれませんが、湯梨浜にある物、スイカとかイチゴとか梨とかなんでもジェラートにして売る店、逆に若い女性の方に

聞いてみたい、こういうのがあったら、行きたい、そうすると、みんなが便利が悪いとか狭いとか関係ないですね。旧船岡町の山奥に大江の郷というのがありますが、信じられないような不便な山奥があるんですよ、そこに若い子がいっぱい来るんです、ケーキを食べに。それは美味しい物を作る、若い人たちが欲しいと思う物を作って出せば人は来るという事です。だから、泊でもそういう人たちに来てほしいと思ったら、そういう物を作って出すっていうような事をすると人は来るんじゃないかと、場所が悪い、あるいは便利が悪い、っていう事じゃなくて、逆に泊の強みを活かした物を、現代のまさにチャンスとかこういう風が吹いてるという事を捉えて、弱みとかピンチを逆に克服する努力をして、それが合わさったものが、拠点のテーマになるんじゃないかと思えますので、みなさんの方から意見を聞いてみたいと思います。事前に皆さんが出されたものを事務局の方が取りまとめてくれています、それを見ながら、みなさんの意見を板書しながらいきたいと思えます。それで、みなさん既にご存じの方も多いいと思いますけど、こういう席の意見というのは、声の大きい人の意見を大事にするのではなくて、ボソッと小さな声のつぶやきって大事なんです。恥ずかしくて言えないんだけど、こんなのがあったらいいのになあ、というようなつぶやきを大事にしたい。この席では他人の意見を批判しない、批判するのではなく分からない事があれば、質問するなり、こうでこう思うけど、こうだったらどう？というような言い方をしてください。それからいろんなアイディアは難しい事を考えるのではなく、質より量、思いつくことをポンとしゃべってもらおうとか、で、それはばかばかしいと思われるような物の方こそ望ましい、こんなこと言っても出来んのじゃないかなあと思うような事を言ってもらったらいいいと思えます。他人の意見にもあるように、誰々が言った意見を、そう言えばそれにこうすればもっと良くなるんじゃないのとか、そこから閃いた事を言ってくれたらいいので、こういう意見の出し方をしてください。そうするとより新しい、役場の方もおっしゃってましたけど、日本で初めての物、日本で一番の物、が、あるという、例えば今鳥取県に来ている日本財団でも、補助が出しやすいとか、どこでもあるようなハードで作ってもそういうところからはお金はきません。だから泊ならではの物、日本で初めての物、日本で一番とか、あるいは世界でも珍しいとか、そういった物を作り出していくという事が、小さな拠点の1つの主なテーマになると思えますので、そういった意見が出ればいいなと思えますので、活発な意見をお願いします。今日のテーマはどういう拠点、施設にするかという、拠点、施設のテーマ、例えば、ちょっといきなり出してと言っても出てこないの、さっき言ったこういう物を見ながら思ったのは、野菜にしても果物にしてもいろいろなものがあるので、例えばそういう物を売る、とれたて野菜・魚、そういう特産市を作ったらどうかなという事で、1つの例として挙げています。それから天女伝説がありますから、例えば天女の休憩どころ、ここに出てきている女性がみんな例えば天女だとして、そういう人たちが集まる休憩どころ、そして「ゆうゆうゆったり TOMARI」とか、そう言ったネーミングにしたらどうかとか、あるいは、東郷の方の三八市、鬼嫁の休憩どころとか、逆に「どきどきどつきり TOMARI」とか、こういうテーマ性とかキャッチーなコピーをつけて、そういった施設を作る、そのためのキャッチなテーマを付けて欲しいと思えます。ちなみに岩美町に女性陣が作った、小さな拠点は、女性陣は井戸端会議と言いますが、海のすぐ近くなので「なだばた」と言う名前を付けて、着物を作ったり、それこそ女性陣がわいわい言いながら、そこに場所があって、そこでそういった物がだせる食堂にしようという事で、岩美町の網代漁港の近くに「なだばた」という新しいレストランが出来てます。そういったその場所に合った、特徴を活かした、自分たちがやりたいと思う活動に対する名前、テーマを決めてほしいと思えます。強み、先ほどの本を見て思ったのは、野菜にしても魚にしてもいろいろな物が新鮮なので、強みなので、それを活かした方がいいと思う。それから東郷湖もあるのでそう言った所を活かせるような物、それからどこに作るかという事もありますけど、どういった物売るのか、どういった物を欲しがするのか、そういう物をどうするか、というような事がテーマになるので。地域住民の繋がりが強いとか、集落ごとに大変個性がある、これ書かれた人？地域住民の繋がりが強いとか、集落ごとに個性がある、例えばどんな個性があります？泊の中の集落の。

(委員)地域が地区ごとに完全に分かれていて、そこ独特の慣習とかいうか、そういった物があります。

(C o)例えばどういった物がありますか。関わっている地区で何か、慣習でもなんでもいいです、その地域の売りになるような。

(委員)売り。

(C o)これは、1つには団結力が強いという事が言いたかったのかなと思えますが。

(委員)例えば、農家が多い地域だったり、逆に漁業が多い地域だったり。

(C o)これはそれぞれに営業している？それとも、農家は農家、漁師は漁師の地域の団結力？それとも

相互の関係はあまりない？

(委員)無いと思うけど。集落が分かれているので、その地域ごとの繋がりは強いなあと思うんですよ、何がっていうか、地域の。

(C o)地域の繋がりを表すような何か、例えば地域の公民館のイベントなんかありますか。地区ごとのイベントみたいなもの。

(委員)公民館祭りがありますし、例えば、冠婚葬祭なんかもちよっと雰囲気は違ってたり。

(C o)こういう物をなんか活かさせませんか、それぞれが出し合って。泊村が出来る前はいくら村があったんですか？昭和の大合併の前は？

(事務局)3つ。三橋村、久津賀村、泊村。

(C o)3つ位で。今でもそれごとに公民館がある？

(事務局)公民館はそれぞれ新しい地域ごとにあるんですけど、その地区公民館と部落公民館とは違うので。

(C o)違う？

(事務局)違う。地区公民館というのはないんですよ、だから公民館というのは1つなんですよ。

(C o)泊地区だけでなく、全体の？

(事務局)そうです。

(C o)ちょっと今思ったのは、智頭町では、地域ごとに、旧村ごとに分かれて協議会を作っているんです、協議会ごとに競争させる、協議会ごとに自分たちの地区を良くするためにどういう事をしたいか競争させる、良い提案には役場も補助金を出すと、ただしさっきも言ったようにハードを作るためはダメだという事で、ハードでも、例えば、そこで機会を作るような、機会を作るための施設を作る、その地区の何かをするために作るんならまだいいんだけど、大きなものを作るために出すんじゃないくて、地区ごとの拠点を作ったら、地区ごとのお宝を出すとかね、そういう事に繋がらないかなあと思ったりしますけど。

(事務局)ここは、大正7年に合併してるから、今年で確か100年だと思う。

(C o)あっ、それいい、大正7年、それは昭和の合併の前ですよ。

(事務局)昭和の大合併はしてないです。

(C o)してない？創立100年。

(事務局)自分では100年と思っているけど・・・。

(C o)100年はチャンスなんですよ、100年に絡めてなんかやれる、大正7年・・・。100年ですね。1918年。

(事務局)旧の3地域が合併したのが、大正7年だから、昭和の大合併してないんでここは。

(C o)これ、今年？今年ですよ。

(事務局)今年ですね。

(C o)それなんかやる予定ありますか？

(事務局)ないんですよ、声も上がらない。

(委員)声が上がらんことはないですよ、去年から、海の駅とまり協議会とかで、来年100年ですよと言って、泊の夏祭りステージショーで、今年は泊村出来て100周年ですよという事で、ステージショーで泊にちなんだ人に出してもらおうとかしたんですよ、その程度の事しか出来なかった。

(C o)いいんですよ、こういうの、これこそチャンスなんですよ、100年というのはチャンス、これをステージショーかなんかで、実はそれで終わるんじゃなくて、その時に出してもらった分を、何々に使う、そのためのきっかけにする、そういうのはすごく大事、さすが。こういうのはチャンスなんです、これこそチャンス。100歳の人はいいますか？

(事務局)います、泊は今年の敬老会は2人だったかな。全部で30人くらいいるかな、湯梨浜町に。

(C o)そうするとね、これはチャンス、100年前の泊の風景とかね、写真とか集めるとかね。100年前にあった魚とか、食べ物ね、なんかこれを絡めたものが1つのチャンスですよ。漁業・農業、これ書いた人誰ですか？漠然として分かりにくいので、もう少し説明してほしい。じゃ、定置網火曜の朝市、元気海の開店は？説明してもらえますか？何がチャンス？

(委員)長年泊地区では魚が上がるのに、その地元で魚が買えないという問題がありまして、それが今年、漁協さんが毎週火曜日に朝市をされるようになりまして、その定置網で上がった魚を朝市で販売されるようになったっていう事は、うれしいニュースだと思います。それに、近くでヒラメの養殖をされていました湯梨浜振興さんというのが、食堂を7月にオープンされて、その養殖されているヒラメを使ったヒラメ丼とか、ヒラメラーメンを提供されるようになりました。

- (C o)それは、すごいチャンスです。そういう物が食べれる場所が出来ることによって、地元の人もそこに食事に行けばいいし、外から人も呼べるんじゃないですかね、呼べるような工夫をすとか、それが意味新しい施設を作る場合、そういう物が買えます、こういう物が食べれますというのが、1つのテーマになると思います。そうすると、例えば、ヒラメ井作るの作るけど、魚だけじゃダメなんで、その時に野菜をつけるか、野菜をちょっと入れるかとか、あるいは、後のデザートで果物を食べるとか、そういうセットを考えると何か…。そういう風に発展させていったらどうかと思うんですけどね。びっくりしました、いっぱい、果物にしても、クレオパトラメロンにしても、とまり美人にしても、結構いろんな果物や野菜があるじゃないですか、井に合うか分かりませんが、梅干しがあったり、これは泊じゃないですけど。泊漬けでもいいですけど、そういう物をセットにする、ヒラメ+泊漬けのセットにする、これは、ヒラメ井ではなくて泊井にするとか。そういう感じで、それが食べられる場所があるとか、そういう風にしていけばいいんじゃないかと思うんですけどね。ヒラメラーメンがありますけど、セットで考える。あと、強みとチャンスの方からいっていますが、逆にピンチのほうで、弱みとか、悪いところを変えれば、逆に強みになったりチャンスになったりするんで、アクセスが悪いわけではないが認知が弱い、説明ちょっとお願いします。
- (委員)泊に住んでいないので、毎日通っています。鳥取県出身で、泊のまちの中に入ったのが、この1年前だったんですけど、入ると結構面白いところがたくさんあって、認知はないんで、教えてあげられたら、遊びにこられると思うんですけど。
- (C o)良い意味で開発されてないとかね、伸びしろがあるという事ですね、という事は認知度を上げればいいですね、だからヒラメにしたって、他のものにしたって、認知度をあげたらいいんで。じゃあ、認知度を上げるためにはどうすればいいと思いますか。
- (委員)私は鳥取から、松江や米子に行くんですけど、寄って抜けるルートが出来るんじゃないかと思ってまして、旧9号線だけしか走ったことがなくて、海のところを通過して青谷に抜けるという事を活かしてやれば、面白いゾーンになると思います、通り道というような事を仕掛けとして絡めて。
- (C o)通り道というか寄り道して、寄り道できるような設備があれば。
- (委員)景色もすごくきれいで、上を通るより下を通った方が断然きれい。
- (C o)景色を見ながら。ちなみに松江に行ったり米子に行ったりする時は、どこで昼食とられますか？
- (委員)はわいの道の駅です。あそこに必ず寄ります。
- (C o)おっしゃる通りで、赤碕の道の駅で、「日本海を食べにきてごしなれ」と書いてあるでしょう、あのキャッチはいいキャッチコピーだなあと思って。あそこで海鮮丼を食べたりする。すぐ寄れたりするので、アクセスは大事だと思うんですけど、どうやって認知度を上げていくか、何をやっていくか、その知恵があれば、強みになると思う。あと誰かここに書いたやつで、説明したい人はおられますか？Wi-Fiのスポットを整備すると書いてありますが、Wi-Fiを使ってパソコン見たいと若い世代で何かありますか？
- (委員)9月に四国を旅行した時に、松山も高松もWi-Fiが外国人のために整備してあって、すごい使いやすいなと思って、だけど、泊って東郷や羽合よりもインターネットも整備がされていない、もうちょっと使いやすくなったらいいなと。
- (C o)これは認知度を上げるひとつの材料になりますよ、整備されたらね。
- (事務局)どこが整備されてない？
- (事務局)中央公民館泊分館は整備されています。
- (事務局)潮風の丘は？
- (事務局)出来ていると思います。
- (C o)そうするとWi-Fiここ以外通じますとか、そういう地図を作らないといけない、それでもし必要なら、IDとパスワードも書いておけば良い、例えば、「TOMARI」とか。
- (事務局)何か所かは泊も整備はしているんですが、言われたようにきちんと表を出していません。
- (C o)それは、役場への宿題ですね、となると、こういう事を上手に出来るなにかデザイナーとか、詳しい人をだれか知っておられますか？もしいかなかったら、こういう事が出来るような体制を整えてもらって、認知度を上げるような、拠点施設が出来たら。先程、100周年という事だったけど、念のために何月ですか。
- (事務局)11月か12月だったと思いますが、きっと11、12、1月だと思います。
- (C o)どちらにしてもこれはチャンスですよ、絶対に。100年に1回というのは、100年に1回しか来ないんですから、これなんかイベントやりましょうよ。あと、泊で一番集客のある施設ってどこで

- すか。グラウンド・ゴルフの丘、グラウンド・ゴルフが一番集客しているのか。
- (委員)水明荘です。
- (委員)水明荘は東郷です。潮風の丘だと思います。
- (C o)グラウンド・ゴルフをした人を連れて行くの？
- (事務局)あとは、サーファーの所かな？石脇の。サーファーが結構来ている。
- (ワザハバ)結構来っていますね。
- (C o)マリンスポーツ、あなたは？マリンスポーツを書いた？
- (事務局)ちょっと紹介して。
- (C o)自己紹介プラスマリンスポーツについて説明してください。
- (事務局)地域おこし協力隊として、9月から着任していただいています。
- (C o)よろしくお願いします。説明、マリンスポーツあるいは、一番大事なのは、来て間がないという事は新鮮な目で見ているんですよ、なんかここら辺がおかしいとか、ここら辺が素敵だというような事はないか、来てすぐにはすごくよくわかるんですよ、だから今のチャンスを活かして、意見を言ってください。なんか他の所と違ってるところとか、良い所とか。
- (ワザハバ)サーフィンが出来る環境っていうのがあると思うんですけど、オリンピックが今度開催されるので東京の方で、もう少しサーフィンの方も、力をいれてもらった方がいいかなと思います。やはり鳥取がすごくいい波ですし、人が少ないので、せっかく湯梨浜のサーフショップの真ん前にあるので、それを踏まえて一緒にキャンプ場とか、昔あったと思うんですけど、それもやってみたりとか、子どもさんとかも結構やってらっしゃるので、最近サーフィンやってる方が・・・。
- (C o)サーフィンの季節って何月から何月？1年中OK？寒いじゃないですか、冬はそうは言っても。
- (ワザハバ)1年中です。
- (C o)サーフィンやった後は、疲れるんじゃないですか？お腹がすくんじゃないですか？何食べます？
- (ワザハバ)焼肉とか。
- (C o)焼肉ね、見てたら焼肉のたれは、あれは東郷かもしれないけど、泊のグラウンド・ゴルフのところにも焼肉があったと思ったけど。焼肉のたれはあれは東郷ですか。
- (事務局)泊でも作ります。
- (C o)魚でもいいんだけど、肉でも。思ったのは、サーフィンをして何をして健康に関する事に、健康をひとつキーワードに出来ないかなあと。健康とか健康食品、健康をキーワードに出来ないか、スポーツは健康だし、美味しいもの、健康にいい食事とか、精神的にも景色がいいからゆったりできるとか、そういうのを売りに出来ないかなあとちょっと思ったりするんですけどね。あと、景色はどうですか？
- (ワザハバ)景色は最高です。泊の海の真ん前に住んでいるんですけど、すごいです。もちろん石脇もきれいですけど。
- (C o)地元の人が全く気が付かないし、いいと言わないのはね、空気がうまいとか、水がきれいとかね、当然海はきれいだし、そういう事を当たり前と思っている人は、あんまりいいとは思わない。ほんとはいいんだけど。サーフィンする人たちは海がきれいだとか、空気がいいとか、水がいいとか言うけど、空気はうまいし、そうすると食べ物もうまいんですよ。漁火もいいでしょう、今たぶん出てると思うけど、だから、漁火スポットみたいなものがあるって、そこで漁火を見ながら、井ぶりを食べるとかね、時間設定があるからこの時間に来たら、季節によるかもしれないけど、漁火が見えて、美味しい海鮮料理が食べられるとか。そういう物をセットにしたような物が出来ればいいのかなと思ったりもしますが、だからそれは海を活かすとか、漁業を活かすとか、イベントはサーフィンのつくイベントにしてしまえばいい。海や海岸が実はあんまりきれいじゃないのは誰が書きました？
- (委員)砂浜を結構歩いたりすると、かなり海岸の漂着物がすごいですよ、あれをほんとにきれいと誇れるのかなと。
- (C o)年に何回か、夏の前にそういう清掃はしないのか。
- (事務局)しますけど、漂着物が多くて、それとか夏場にキャンプされた方たちで後始末してない方がいる、見てたらね。きれいにしようという意識は地域の人にはあるんです。春、海岸の一斉清掃をやられるので、どこも。なかなかそれ以上に漂着物が多いんです、地元の方以外の方の意識が少ないのかな、今車社会なので、車で海岸に入ってきて、キャンプ場される方がいるんで。
- (委員)ごみの山になりますからね。
- (事務局)宇谷の方もでしょ？

(委員)そうです。

(C o)これは悪い事だけど、これひとつイベントにできないですかね。例えば、漂着物のごみを拾った人には1泊の宿泊券を出すとか。

(委員)コスモ石油のクリーンイベント(コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン)みたいな。

(C o)そういうのです。

(委員)あと、ビーチグラスとかね、有名ですけど、歩いたわりにビーチグラスとれなかったですけどね。

(C o)悪い事を解消するためにイベントを組む。

(事務局)コスモ石油は前、羽合の海岸やりましたね、確か、5年以上前に。

(会長)今年の春は、1回、サーフショップさんがビーチクリーンのイベントをしたんですけどね。

(C o)だからそれをセットすると、PRにもなるし、もともとこんなきれいな海ですよと見せながら、ごみでこんなに汚くなっているんです、これを何とかきれいにしましょう、きれいにする活動を応援してくれた人には、泊のお土産あるいは何かを差し上げるか、そういう方法が何か。あと、外部者を受入れる土壌、環境が少ない、これはどなたですか？あと、独身者が結婚してない、誰ですか？

(委員)はい、そのまんまです。

(C o)独身の人多いですか？

(委員)多いです。

(C o)じゃあ、今後イベントどうですか。

(委員)行政の方では。

(事務局)行政ではしているんですが、行政でした分は大体成功しない。

(C o)行政は公平とかなんかそういう原則で動くから面白くない、民間のようにばかだと思われるような事は役所では出来ないんですよ、ちょっと変わった事は民間はやらないと。だからこら辺の事を合わせたようなイベントが出来れば、変わるんじゃないかと思うんですけどね。変えることをやって、来てもらうイベントとかをやっている、そういう事も出来る拠点に、そういう事が話し合える場所が必要かなと思うんで、そういう場所になればいいんじゃないかと思うんですよ。生産年齢世代の減少による集落運営や伝統行事継承に支障が出ている、これは誰ですか？どういう伝統行事に支障が出ているんですか？

(委員)若い世代、我々から下くらの世代が少なくなってきた、この前も、泊の灘郷神社の祭りの大名行列をするんですけど、各区から割り当てがあるんですが、なかなか集まらなくなってきたというのもありますし、私去年まで4年間、集落の公民館長をしまして、僕らの時代は、泊各区に泊各区の子ども会があるんですが、単独で子ども会を組織できていたんですが、今は複数の区合同なので、その集落の公民館と子ども会との連携が上手く出来なくて、集落の行事をする時に子ども会は別の行事を設定されたりして、で、12月にいとこ煮という泊区恒例の、小豆でかぼちゃや団子を食べる恒例行事をするんですが、その会に子ども会さんは別の会場でクリスマス会を設定されてまして、いとこ煮会の時にまさに子どものいない高齢者ばかりの会で、すごく淋しい思いをしたことがあって、そういう風に、集落の運営にもだんだん支障をきたしていると感じたので、それを書きました。

(C o)それは情報がうまく伝わってなくて？コミュニケーション不足？

(委員)コミュニケーション不足、私の反省材料でもあります。

(C o)ちょっといとこ煮の説明をしてもらえませんか？

(委員)いとこ煮は、僕も若い頃は知らなかったんですけど、12月にかぼちゃとか団子とかを食べて、風邪をひかないように暖かくて、甘いものを食べるという風習があったみたいで、それをうちの集落では毎年恒例行事として食べている。

(C o)それ、12月？

(委員)12月の後半くらい。

(C o)かぼちゃを食べる日って、冬至の日？

(委員)冬至の日の前後に設定されて。

(C o)これ、復活させましょうよ。いとこ煮会を。で、いとこ煮の美味しいコンテストをやるとか、そうするとその料理がうまく使える、いとこ煮のイベントをやるんだったら、いとこ同士で参加してくださいって条件を付けたり、そんなイベントをして人を集める、実際12月は冬至の日の近い日曜にやるとかね、実はここにいとこ煮という習慣があるんですよと、意外と知らないですよ、これ。いとこ煮知ってた人？知らないでしょ。

- (委員)僕も若いときは知らなかったですね。
- (C o)若いときは知らなくても、今は知ったんだから、もっと多くの人に知ってもらいましょうよ。
- (事務局)小豆で煮る？めずらしいな。
- (委員)こっちの雑煮にかぼちゃをいれるような。
- (委員)もちが入ってるんですか？
- (委員)もちの代わりに団子。
- (C o)それいいね、それやろう、いとこ煮会。これは甘いものだから、女性や子どもは好きだから。女性2人どうですか？あまり好きじゃない？
- (委員)僕は別の区ですけど、12月は区としては餅つきをだいたいやっています。12月中なんで別に後半でなしに12月に入ったらで。区独自で。ただ最近ではノロウィルスとかありますから、毎年やるかやらないか悩みながら、今もやっています。
- (委員)餅つきはほとんどの区がやっている、12月。
- (C o)12月の餅つきは、お正月とかあるし。いとこ煮は聞いた事がないね、初めて聞いた。これはいいな。で、中にかぼちゃ、饅頭、地域のいろいろな材料を入れればいいんで。それと、漁師の減少、農業・漁業の衰退、これは？漁業の衰退？衰退が激しいですか？
- (会長)僕が子どもの頃は、漁師の人が100人近くいたかもしれない、なかなか新しい方は増えてこないんで。
- (委員)ポンと来てすぐできるわけじゃないから。
- (C o)やっぱり、訓練が大分いりますか？
- (委員)そうですね、すぐ来てって訳には。
- (C o)どのくらい期間がいらしますか？
- (委員)僕は3年でしたけど、魚種によって、漁の仕方によっても変わります。
- (会長)基本的には今の漁師さんだって、だいたい若い時から、親についていて。
- (C o)子どもころからやってるから。
- (会長)定置網など、組織だったようなものが出来てきたので。
- (C o)漁業者を増やさないと。
- (委員)県としては後継者をIターンみたいな感じで、継続してやってるんですけど、やっぱり途中で、ダメになって、やめる人が結構多くて、思ったよりも。
- (会長)思ったよりきつい仕事じゃないですか。
- (C o)Iターン、Uターン毎年どのくらい？
- (委員)そんなペースじゃないです、何年に一人。僕がきて、誰か新しい人が入ったかっていうと入ってないんで。僕は10年以上になります。
- (C o)漁業者の子どもは跡を継がないんですか。
- (委員)そうですね、もう継いでいる方が少ないです。親がそんなにさせない、こんなえらい商売させるんだったら。
- (C o)きついか危ないとかあるんですか？
- (委員)もちろん。やはり収入が不安定だというのが一番大きいと思います。
- (委員)収入が少ないです。きついのと冬はもうだめです。
- (C o)漁師っていうのは、安定はしてないかもしれませんが、一人一人をみると100万円とか200万円とか、若い頃はぼんと入っていると。
- (委員)魚価の低迷がものすごく大きいですね。
- (委員)時代は流れています。
- (会長)魚価は低いんですけど、ちまたに出ると、高いですけど。売る方は高くなっていますけどね、間違いない。
- (C o)売るシステムを考えると。
- (委員)根本的な所から、それこそ漁師が市場に出すんじゃなくて直で、そういうような形を考えていかなくてはいけない。
- (C o)そうすると、獲った魚を直接消費者に届けるのが一番利益があがるんじゃない。
- (委員)その間を抜くというのが一番。
- (C o)だったらそういう所を作ればいいのでは？
- (委員)逆に今度個人ばかりでそういう話をしててもダメなんで。結局組合を巻き込んで、改善していかなくては。

- (C o)組合として収益を上げるため、利益をあげるためには、魚を直接消費者に届けるために購入して、収益を上げていきたいと思いますという話をすれば。
- (委員)そんなことは、多分とうに思いついているはずなんですけど、なかなか。
- (C o)そうすると衰退が少しでも減るかもしれないし、そういう取組をやるとかね、そういう場にするとかね、施設を。
- (委員)それに、サラリーマンの方は、なかなか一晩で100万円入るとかそういった魅力がないと若者もやろうという気になれない。
- (C o)時代が変わったっていうさっきの話じゃないですが、県内のある町の方はね、ちょっと危ないかもしれないけど、9月に1晩、2晩海に出て帰ってきたら、100万円、200万円になる、で良い車なんかを買ったりする。そういう事が現実的にあるのであれば、そういう事に興味があるかみたいなPRしてもいいかもしれない。
- (委員)大体口を揃えて、ここで、泊で、漁師をするかと勧められる漁師が、いるかといえば多分いないと思う。
- (C o)頼むからそんな危ないことはやめてくれと？
- (委員)まあ、それもあるかもしれないけど、もうおそらくそんなに簡単に食っていけないぞ、と最初から勧められない。僕も正直誰かに勧められるっていうと、覚悟してするんならいいよと。
- (C o)覚悟ってどんな覚悟ですか？収入が安定しない？
- (委員)そうですね。
- (C o)それはやり方を、例えばやり方っていうかさっきの話で1晩で100万円、200万円で、それを一旦寄付して、一度に使うんじゃないで、何か月にわたって使えるように、誰か管理するとか、そういう事が出来ればいいけど。
- (委員)その100万円が、獲れるなら1年に1回でも獲れば良いんですけど、3年に1回では。こればかりは運なんで、分かんないです。
- (会長)せっかく良い港が整備されているのにね、なんかもったいない。
- (委員)港としては良い施設と思うんですけどね。
- (C o)あとそう言った意味では、栽培漁業センターの定置網とかそういう物を、1つの方法じゃないですか。
- (委員)定置網は結局漁協としての収益が、減ってきてるんで、港として何とかしようという事で、立ち上げた部分があるので、要はその漁師が減ってきて、魚の売上げが少なくなっているんで。定置網をやっているんですけど。
- (委員)今は夏場とかこあじとか釣りに来る家族づれは多いですか？
- (委員)あー、でもよく見ますね。何が釣れているのか全然分かりませんが、見れば他県ナンバーですし、鳥取ナンバーも、わざわざきてますね、家族づれは。
- (委員)そこで食するっていうのと、持って帰ってね。
- (委員)この定置網の強みは、定期的に魚が供給できるなど。この度は、こうやって台風とかが来ちゃうと網あげちゃうので、この火曜日も出来なかったんですけど。網入れしてる限りは、ほぼほぼ何かしらの魚が揚がりますので。
- (C o)ただちょっと思うのは、場所的な事があるのかもしれないけど、富山のあたりに行くと定置網がいっぱいある、むちゃくちゃいっぱいある。
- (委員)規模も全然比べものにならないくらい大きな。
- (C o)あれは、広げることが出来ない？もう少し。
- (委員)そうなってくると本格的な資本っていうよりも、船から何から全部変えないといけないので、多分ン千万の。
- (C o)でも今1個、定置網をやってるのであれば、それに合わせた船なんかはあるんでしょ。そうするとあと1ヶ所定置網するとか。
- (委員)そうですね。今年始めたばかりなんで、これが軌道に乗ったら、また、もしかしたら拡張も、今ほんと始めたばかりなので作業員さんもみんなが素人みたいなもので、手探り状態なので、もうちょっとその辺は、時間が必要かなって気がしますね。
- (委員)この定置網っていうのは、やはり火曜日じゃないといけないんですか。
- (委員)これも漁協の都合らしいんですけど、夏泊が火曜日が休みという事で。
- (委員)土・日にしたらだめなんですか？
- (委員)したらだめってことはないですけど。

(委員)農協なんかでも例えば土曜日は休みなんだけど、日曜日に出勤してきて、それで1番に出荷するという格好をとってるんで、でも、火曜日っていうのがネックだと思うんですね、やっぱり土・日っていうのはお客さんが一番来る場所なんで、ファーマーズマーケットにしても、土・日の売上が1ヶタ違ってくる格好になるので、そこの改善が必要じゃないかなあと私も思っていますし、ついでに言いますが、海がある事の良いついで、先ほど港の中で、魚釣りをやってる家族連れが沢山いるんですね、あじ釣りとかキス釣りをしてるんですけど、そういう所も必要なんですけど、もっとも魚釣りを本格的にやっている人なら、もうちょっと他の漁場があれば良いかなという格好で、実際問題は禁漁になってるんですけど、沖場が禁漁になってるんですけど、あれを何とか活用して、渡船をして活性化につなげる1つの手立てにしたらどうなんかなあと。ていうのが赤碕の漁港は沖場に渡船で渡してお客さんを生んでいる、境港もそうなんですね、一文字の所にものすごいお客さんを呼んで、あとはそこに弁当を配達したり、飲み物を配達したりして、その代わりごみはきちんと持って帰って下さいねって、徹底してるんですけど。そういう事って、あったらいいのになあとは、私も昔魚釣りをしていたので思っていたんですよ。

(C o)いいですね、それね。

(委員)そうすることによって、釣ってきた魚を例えば飲食店なんかで料理するなり、料理出来る所を設ければ、家族連れでそこに来て、釣った魚をそこで料理して、バーベキューなりなんなりして、楽しんで帰ってもらうっていう格好をすればいいのかなとふと思ったぐらいのもので。そこって必要だと思うんですね、魚釣って帰るだけじゃなくて。

(C o)今のはとっても良いですね。だから、そういう事が出来る、渡船の受付をやったり、料理が出来る施設にする、そういうコーナーを作るとかね、いいかなと思います。

(委員)渡船でも、一人1,000円だったら1,000円で、そこに送って往復で1,000円。じゃあ何時に迎えに来るとかいろんなそういう事をおけば、絶対ライフジャケットを着てない人は渡しませんよとか。

(C o)いいですね。

(委員)そういう事をしていけば、もしかしたら起爆剤の一つになるのかなあ、と。ただ、漁協が一文字の所は禁漁になってるんで、そこを解除しないかぎりには出来ないんですけど。

(C o)それは、漁協との話し合いだから。

(委員)基本、魚釣りはどこでもやってもいいんですよ。

(委員)あの一文字？でも、渡れんでしょう？

(会長)上陸したらだめなんです。

(委員)それを解除しないとちょっとダメだと思うんです。船でその辺で釣るといいんですけど、じゃあそこで、漁業船を出すとか、そういう格好でまず1つの起爆剤を作って、人が集まるようになったら次の段階を踏めばもしかしたらいいのかな。そこで、泊ではこんなイベントやっていますよとしていけば。

(C o)ちょっと漁業の人と話をしないとイケませんね。

(委員)そうですね。

(C o)とてもいい意見だし、そういう風に出来れば、帰りに釣れなかった人が魚買って帰るとかね。

(委員)そうですね。

(委員)それこそ朝市で買った魚を、丸々持って帰るんじゃなくてどこかで捌いてくれて、刺身として持って帰る。

(委員)家族でバーベキュー出来るようなところがあれば、各自で捌いて食べて楽しかったね、帰ってもらってもいいんじゃないのかなと。

(C o)いい意見だ、そういう場所が必要だと思いますね。

(委員)そういう場所ありますからね。結局広い駐車場がありますし、これが、町や県が何か建てるってことだったら、うまくいなくなってしまうんですけど。今時点では何もそういう事になってないんで、そういう施設があってもいいのかな、それと山陰道が開通するでしょう、来年の夏までに、鳥取まで。でも、泊・東郷インターはただの通過点になってしまうので、降りたところに何か店を設けて、情報発信したり、お客さんをそこで1回とめる様な事を考えた方がいいのかなあ、とは思ったりしています。

(C o)降りる前から案内を。

(委員)何らかの形で案内を。看板を出して、泊の良い物を、農産物だったり漁港の物や、加工品でも泊

で加工したものですよという物を置いたりして、出来れば簡単な話なんですけど。

(C o) いい意見ですよ。いいですね、そんなに難しい事ではない。

(委員) コンビニみたいな恰好で置いておいて、横にそんなのがあるっていうのも。でも、誰が手を上げるか分かんなんですけど。

(C o) 釣った魚を料理できるっていうのと、そこで釣った、買った魚をそこでバーベキューなりなんなりして食べる。ちょくちょくあるんです、そういうのはね、人気があるらしいし、勉強すればそんなに難しくない。

(委員) 精肉店さんもありますので、その近くで肉もありますよと、そうすればお客さんを9号線から、離れたところに呼び込む手立てになるのかなあと。

(C o) いいですね、それも。だから、そういう事が出来る施設、バーベキューが出来たり、そういう物が買えたり。

(委員) 今、アウトドアがすごく流行ってきていますので、多分地元の人にもいくと思うんですよ。私も行きたいと思いますね、そういうアウトドアができれば。

(C o) それがいいんです、地元の人が行かないような所には人は来ません。自分としてもそこに行って食事がしたいとか、それがいいと思うんで、是非それをやりましょう。いい意見が出てくるな。10~20代の人たちが地域のイベントへの関わりが少ない、人が集う所がない、集う所があればみなさんきますよね、そういう場所がないからみなさん行かないんだ。そういう施設を、集う所がある施設にすればいい。これが拠点施設の目指すところだ。10~20代の人がイベントに関ることが少ないが、そういう施設があれば来るんじゃないのかな。あとは空き家が多いってありますが、空き家多いですか？

(会長) 空き家多いと思います。

(C o) その空き家って貸してくれる？あまり貸さない？どうですかね。そういう空き家を有効活用して、そこに新しい施設は別として、そういうのを使いながら何か出来ないかなあ。風車の撤去、これ書いたの誰？あれはない方がいいですか？

(委員) いや、町長と語る会で、主旨説明があったんですけど、あの風車存続させるのが相当お金がかかるみたいで、なんか撤去するって聞いたんで、鳥取県で最初に作った風車ですけど、ピンチをチャンスに変えるかなと考えて。

(C o) 維持費がかかる。

(委員) ワールドマスターズゲームスで、人が来られるんですけど、風車を太陽の塔みたいなモニュメントに、有名な人にデザインしてもらって、風車をべらぼうなオブジェにしたら面白いかなと思ったんですけど、でももう撤去と決まったので、それも仕方ないのかなと。

(C o) 逆にチャンスでしょう、撤去が決まったんなら。撤去する時にそれを売り出しするとか、例えば、1週間でもオブジェを作って展示すれば。

(事務局) 撤去といっても解体撤去なんです。そこが難しいよね。機器の中身については企業的なものもあるんです。ですからきっちり解体してかからないとよくない事になるので、発注は間もなくですが、解体しようという話じゃないんですけどね。

(C o) でも、今のアイデアは、かなり良いアイデア。

(委員) 山陰道を走って、風車がすごく目立つんですね、あそこにモニュメントのようなべらぼうなものがあつたら、すごくランドスケープみたいになるかなと。

(C o) 撤去の仕方を考えられないかな。企業秘密みたいなのは取ってしまつて。

(事務局) そのことは議会の中でもあったんです。モニュメント的なもので、例えば途中まで切つて、そこから鳥取県の第1号機として残せないかという事もあったんですけど、次の事を考えるよりも、1回撤去して、次の事を考えた方がいいというような、方針が出てしまつていますから、それについては。

(C o) もう結論が出てしまつてる、もう後戻りは出来ない。よくあるのは、壊す時にアートにしてしまつて。

(事務局) アートっていうか、言われたように、オリンピックの次の年にワールドマスターズの大会の競技中の1つにグラウンド・ゴルフが入っていますので、きちんとした芝の整備がいるんです。もともとそこに入っていますから、本当は風車を置いておきたかったんです、環境の面でも、ある意味アピールにもなるし、ただ、今のまま置いておくと大きなプロペラとかそういう安全面の事もありますので、そうなるかと撤去するしかない。軸がずれてしまつているんです。

(C o) でも、アートにすれば面白かったな。

(事務局)そこ一瞬考える事はあるんですよ。一瞬。

(C o)あと、書かれた人でこれを説明したいという人はありますか。

(委員)はい、チャンスが一番下のポケモン GO なんですけど、去年の暮れだったか県が砂丘でやりましたよね。あれ、問題がすごく山積してるんですけど、例えば駐車場の問題、あるスーパーの店長と話をする機会があったんですけど、職員さんが出勤してきたら、止め場がない、なにこれって言ったら砂丘に向かって長蛇の列で、もうとにかくとんでもないことになってまして、その方々が帰ってこられた時に、その店舗内で止めさせてもらったんだからって、店舗内でいろいろ買い物して帰られた、で利益は上がったっていつとられたんですけど、いわゆる周りの住宅街の方々の今度は食生活が、売るのが無くなっちゃって、とてつもない量が出てしまって、来られたけど売るのがないとか、予想外の物が出て、うれしいやら、悲しいやらみたいなことがあったらしいんですけど、で次回もやればっていう事だったんですけど、知事が、それは各地域地域で考えにしてやってください、という事だったと思うんです、確か。でも、もしやれるんだしたら、悪いところをなんとか何とかクリアするような事を考えてから、潮風の丘なんかでも、イベントをそこの会社と。

(C o)要するにポケモンGOを呼びたいって事？

(委員)呼んで来れば、人が集まってくる。そういう事もここを知ってもらう事に於いてはいいのかなと。ただ、周りの住民の方に迷惑がかかるのは、確かなんですけど。迷惑ありすぎるかもしれないですけどね。よくわからない人が村の中をスマホを持って、うろうろうろうろ、なんだこれはって事になるかも。

(C o)あれはやってない人には分からない、あんなに来るとは思ってなかった。びっくりした、なんでこんなに車が多いの？なんでこんなに人が多いの？って感じだったものね。

(委員)もう下火になっていると思っていたんですけど、まさかそこまで、来るとは思わなかった。でも1回の起爆剤にはなるのかなと。

(C o)いろいろな意見が出てきたんですけど、今日の目的は、テーマ、キャッチフレーズを決めたい。みなさんの方で、意見があって、テーマを決めてきた人はいます？何でもいいので教えてください、書きますので。いろんなテーマがあって、まあ、いろんな意見が出て、テーマに関係しそうなことを書き出してみますけど。魚釣り、100周年、こういうテーマの施設だったらいいんじゃないかと、さっき魚を釣ってその場でバーベキューが出来る施設、渡船受付、こういうのが出来る施設だったらいいなど、ヒラメ井、何か思いつく事キーワード、何でもいい。風車、いとこ煮、サーフィン、今出てきた意見で、施設として関係する、小さな拠点として関係があるのは、魚釣りしてすぐ料理が出来たり、渡船の受け付けをしたりする場所とか、そう言った場所になればいいのかなというのが出ましたけど、他、なんかありますか。魚だけじゃなくて野菜もあったりする、漬物もあったりするんですけど。やっぱりそういう物を買ったり、売ったり出来る施設とか思ったりしますけど。

(委員)それはサカナクワイ屋のところでもやっているでしょ、加工品あるんでしょ。

(会長)今ちょっと、休憩していますけど。

(委員)それが出来れば、サカナクワイ屋の所で販売が出来ますよね。

(会長)できますね。

(C o)その施設とかぶらせてもいいし、逆に配慮してもいいし。キャッチーなコピーありませんかね？今ここで出来そうな。さっきちょっと考えたの、当たり前的事だけど、取れ立ての野菜とか、獲れたて魚でもいい、獲れたて海鮮でもいい、何か思いつくことを教えてください。さっきの獲れた魚というのは新鮮なという事だと思うので、獲れたて、とか新鮮とか。ちょっと意見が出ないようなので、書いてみますね。例えば「獲れたて漁師市場」とか、そんなような名前とかね、その辺の名前を変える、TOMARI 市場に、さっきの獲れた魚をすぐ料理できるキャッチコピーがあった方がいいですね、何かありませんか？

(委員)例えば、今どれって良く聞くけど、それって通用する言葉？

(C o)いいです、いいです。

(委員)僕はこっち来て初めて聞いたけど。まあ、分かりますけどね。今、泊で獲った魚でも、市場は賀露に出してしまうので、泊産という形で市場には出回ってないんですよ、だから、泊の魚っていう事をアピール出来たらなという気はします。

(会長)いくらかでも地元産と分かれば、いいですよ、そういう枠を作ってもらって。

(委員)間違いなくこの港から揚がった魚ですよという事で。

(C o)泊はブランドになってないということですね。

(委員)でも、僕が来たてのころは泊の魚が良いって、同じあじでも同じはまちでも。

(事務局)泊の魚は高かった。

(C o)じゃあ、それを活かさないと。

(委員)今泊産の魚って言う風に販売されてないのが、ちょっと残念です。

(C o)泊産、じゃあそれをそのまま、「今どれ泊産市場」、例えば。

(委員)それだったら、魚に限らず、農産物でも。

(C o)今どれ泊産市場、とりあえず候補として、こういうテーマというか、今どれ、新鮮、今どれ泊産、泊をブランド化しようと、泊産市場、あと皆さんが交流するという場所というイメージを入れなくてもいいですか。今どれ泊産市場の中に、さっきの渡船とかサーフィンの受付とかそういうのを作ればいいので、受付とか、今どれ泊産、何かもう一工夫欲しいですね。

(会長)サーファーの人って、こんなのがあったら、便利ってないですか。かなりサーファー来るんですけど。例えばシャワーがあったらいいなとか、もっとこんなことがあったらって。よくサカナクワイ屋の所で、シャワー貸してって来てたりしてましたけど。

(ワザバー)言っていたのが、スクールとか体験とかいろいろサーフショップにあるんですけど、終わった後に温水シャワーがなくて、水はもちろん出るんですけど、施設がお金でも入れてコインシャワーでも。海水浴場があった時はあったみたいなんですけど、今無くなっちゃって、シャワーとあと買い物っていうかお昼時に、合間にカップラーメンでも何でもいいので、買えるところがないので、軽く食べられるように。

(C o)カップラーメンでいいの？例えば何が食べたい？

(ワザバー)買えるところがない。

(会長)そもそもが。

(C o)やっぱり食べるもの?特に。

(ワザバー)そうですね、軽く食べれるような。

(C o)例えば、具体的に何を食べます？

(ワザバー)お昼っていえば、いつも海晴館さんにお世話になっているんですけど、

(C o)例えば、魚定食、焼肉定食?例えばどういうのを食べてる?どういう物が食べたいと思う?何でもいいの?

(ワザバー)なんでもいい。軽く食べられるもの。待たずに食べられるもの。

(C o)待たずに食べられるもの、それが大事なの。

(会長)バーガーとかそんなもんですかね。

(ワザバー)サンドイッチだったりとか。

(委員)そうなってくるとコンビニ感覚ですね。

(C o)それはどっちになってもいいと思います。バーガーやサンドイッチでもそれはそれであってもいいし、本格的にまあそうは言っても、3回来たら1回くらいは食べてよ、なんか泊の物。どうですか、泊の地区としてはこんなの食べてほしいという物あります?そんなバーガーやカップラーメンで済ましてくれるなよと思いませんか。せっかくだから。

(会長)間違いなくそのニーズは必ずあるわけだから、それはそれで。

(C o)これはこれで売ればいいんだ。

(委員)泊の魚をミンチして、ハンバーガーに。

(C o)ただ、今の要望に比べるとすれば、待たずに食べられる何かがあれば良い。例えば井ぶりなんかだったら、待たずに食べられるかもしれない。決めちゃってもいいですか、「今どれ泊産市場」で、適当に出さないで、何か言いたいでしょ。何か。

(会長)なかなか出てこんなあ。

(C o)何か思いつく単語言って。単語。

(委員)パクリになっちゃうけど、ゆうゆうとまり、みたいななのでも良いのかなと。遊んだりとか、ゆうゆうゆったり泊とか、そんなんは良いなと思ってみていたんですけど。ゆうゆうランドとかなんとかって、関金の方にあつたなと思って。

(会長)湯命館、関金は。

(委員)いやいや、ゆうゆうランドとか魚釣り、にじますやなんか釣るところ、関金の奥に。

(C o)ゆうゆうってこれ、湯梨浜町のなんか?

(事務局)女性をターゲットにした、キャッチフレーズみたいなものですけど、それを使っちゃうと泊らしさがどっか、欲しいですよ。

(委員)石に穴が開いてるのはなんでしたっけ?

- (C o) 鰻穴。でもね、泊ってという言葉とっても良い言葉だと思うわ。とまるってというのは、お金がとまる、とまる、貯まる。とまりってとっても良いんです。とまり、貯まる、なんか、考えてください。
- (委員) 水槽とか難しいですか？
- (委員) 水槽？観賞用ですか？
- (C o) 生簀みたいなやつ？
- (会長) 漁港内にあるんですよ。漁師が一つずつ持っていて。上から覗いてこれって買えたら一番いいですよけどね。
- (委員) 観賞用としてはちょっと難しい。
- (委員) 例えば、自分で釣った魚を、もう一回来てもらう為に1年間育てるとか、1年育てて大きくなったところを食べるとか。
- (会長) 逆に養殖ですね。
- (委員) そしたら人は逃げないね、1年後に必ず来て食べないといけないと。
- (C o) それとってもいいな、とった魚の生簀。1年後また来て食べてくださいと。これは多分日本初ですよ。それとってもいいよ。獲った魚を1年間生簀で大きくします、死んじゃったら別の魚を入れて、そういうものがある施設拠点、生簀が必要だし、サーフィンのための温水シャワーがいるし、バーベキューができるそういう施設を作る。
- (委員) 電気代はソーラー発電ですか？
- (C o) あー、それはちょっと。ソーラーでもそれこそ風力が逃げてしまったけど。
- (委員) ソーラーならいっぱいあります。建物の屋根は必ずソーラーパネルにして、蓄電池をして。
- (C o) ちょっとずつ見えてきましたね。生簀の電力がソーラーパネル、温水シャワーも別にね、太陽熱温水で、あったかいシャワーが出ます。
- (事務局) 生簀でどのくらいの日数生きているんですか？魚は？
- (委員) その魚の状態にもよるし、大体夏なんかはものすごく温度が、港の中の水なので、それこそ2日、3日くらい。
- (C o) そんなもんか、やっぱ1年は無理か。
- (事務局) 1週間もつかなあと思って。
- (会長) 餌食べたって、聞いた事ないしね。
- (事務局) 物理的に無理じゃないかと思って。
- (委員) 冬場なら、魚にもよりますが、1週間、10日位なら。
- (事務局) 痩せちゃいますよ。
- (C o) そうか、太ったやつが痩せちゃうんだ。1年は無理なんだ。やっぱ獲ったらすぐ食べるが一番だ。アイデアとしては面白いから、そういう魚のいる生簀は。でもこれは日本初になるかもしれないから、がんばってなんかやれば。それこそ日本財団からお金をもらって。
- (事務局) 活魚と鮮魚とかがあってどちらの方にもっていくかっていう事なんでしょうけどね、魚は。
- (C o) 対象にするお客さんは、地元と外も両方だと思うんだけど、どっちに比重を置きますかね？さっきの話で、自分も食べに行きたいと言ってましたよね、外を呼ぶっていても、地元の人が食べなくなるような場所でない、人は来ないしね。
- (事務局) 小さな拠点のテーマからいけば、地元が中心なんでしょうけどね、地元の方が地元の中で、地元の物を消費するっていうのが、最大のテーマではないですかね。
- (会長) でも、継続的にちゃんと経営していこうと思ったら、ある程度、外からのお客さんにも来てもらわないとなかなか。パイが小さいとこでやっていけるかなあって気がする。
- (C o) それは、やっぱりマネージメントしていかないといけないんだけど、でも、固定客っていうのがある程度あって、泊のファンを作らないといけない。
- (委員) あくまでも地元優先的な事をやっていて、でも外に発信するっていう格好。
- (会長) なかなか地元だけでは、ほんと。
- (委員) 無理だと思いますよ。
- (委員) 分ける事自体無理がある。
- (C o) 分ける必要はないんだけど、ターゲットをどうするかっていった場合に、地元の人がきて、うちのなんとかっていう新しい市場、結構美味しいよって、PRしてもらおうとかね。
- (事務局) 地元の人が認知しないと、やっぱ。
- (C o) だめです。地元の人が行きたくなるような所じゃないとだめですよ。地元、とれたて、泊産市場。
- (事務局) サカナクワイ屋はどっちの方が多かったですか。

(会長)地元ですね。

(事務局)ただ、町外の人もやっぱりそうはいつでも、噂を聞いて人がきていた。

(会長)地元で評判が良ければ来られるんじゃないですかね。

(C o)基本はそうです、地元で評判が良いと同時に外にも PR、さっき問題として上がったのは、認知度が低い、だから認知度を上げないといけない、全体的に、という話なので。じゃあ、地元を優先しながら外からも来てもらうために、地元でとれたての泊産の新鮮なものを売ったり、あるいは買ったり、新しい小さな拠点の施設として報告できればいいですか？ちょっとネーミングをもう少し考えた方がいいかもしれません。今日の話の頭に置きながら、とりあえず仮に、「とれたて泊産市場」にしておきますけど、プラスキャッチコピーとか、あるいはサブタイトルつけたり、変えたりしていただくという事でいいですかね？

(事務局)今どれですよ。

(C o)いまだれ、「今どれトマリ産市場」

(委員)泊ってという言葉なんですけど、このチャンス・機会の方にある、とまる、とどまる、とどまりとか泊ってという言葉、ちょっと変化させた方がおもしろいかなあと。

(C o)とどまる、とまる、たまる。

(委員)泊産って単純な言葉じゃなくて・・・

(C o)ちょっとみなさんそれ考えてみてください。アイデアとしてはとっても良いんで。今どれ泊産、泊をちょっと考えましょう。で、他に出てきた、サーフィンのための温水シャワーなり、すぐ食べられる食べ物が売ってあったり、生簀があったり、というような内容を入れ込んだトマリ産市場。

(事務局)とどまり市場でもいいかな。

(委員)たまり場市場

(事務局)とまりを残したい。

(委員)とまりをひっかけないと、地名にね。

(会長)面白くてくだらないことを考えていかないと。

(C o)そうです、今話に出てきたのはとっても面白かったので、そういうのを全部入れていけばいいと思う。泊産は魚だけに限らず、野菜もだしスイーツもだしいろいろあるので。

(事務局)“ど”が二つ付いているので、ど市場にすれば？いまだれに“ど”がついて、とどに“ど”がついて、ど市場にすれば、どが三つ。

(C o)“ど”で強調して？ど市場、いまだれ、とどまり、ど市場。まあ、これをヒントにしましょう。今日のみなさんの意見が見えてきた。今日の宿題は、いまだれ、とどまり、ど市場、これをちょっと皆さん次の会議までに、バージョンアップしといてみてください。あるいは、さっきサーフィンの人が温水シャワーが欲しいとか、生簀が欲しいという意見がありましたが、プラスどういう施設、どういう事を加味した施設がいいか意見を下さい。それが今日の宿題。テーマのバージョンアップと、施設にどういう物があれば良いのかという事を今日の宿題にしたいと思しますので、いいですか？じゃあ、その宿題を次回の前にまた出してもらって、あとは次回の日程を決めてもらって、あと最後にみなさんに意見を聞いてもらって、そんなところでいいかな。今日は最初に言いましたように、拠点のテーマを決めたい、これが一番の目的です。完全には決まりませんでしたけど、みなさんの意見で1つの方向性が見えてきたので、仮にこういう題にしておきます、で、次回にはこれをちょっとバージョンアップしてもらおう事と、拠点の中に必要なものを、こうあった方がいいと思う事を考えてきてください。その2つが宿題です。よろしくをお願いします。

(会長)ありがとうございました。

3. その他

(会長)それでは、次回の日程の方を決めたいと思えますけど、1か月後ぐらいでいいですか？もっと早い方がいい？

(C o)最低でも1か月。逆に事務局に宿題、100周年いつかっていう事を調べておいてください。

(事務局)1月1日です。

(会長)今年の1月、終わっちゃってます。今は101年です。

(C o)今年中にやれば100年だ。

次回日程：10月29日（月）19時～

4. 閉会

- (事務局)小さな拠点今回3回目という事で、キャッチフレーズが決まった後に何をするかという事、実は決めていただきたいと思っています。今年が10月っていう事になると、あと残りは5か月くらいしか、実際にはそんなにないですが、あと、2、3ヶ月の間にある程度施設のキャッチフレーズから次のステップにいく事をきちんと決めていただいて、何をしたいか、何をするのかという事をやっていく必要があるのかなと思っていますので、今の小さな拠点の今回は基本計画なんですけど、次に向かっていくための準備という事で、次に向かっていくのは、先生いつごろ向かっていくんですかね？
- (C o)今日現状分析からテーマを決めました、テーマを決めるためにどういう施設にしたいかという事が必要だったので、何をするかは次のテーマですので、あと1回おいて、その次が何をするかですから、11月がそれですね。
- (事務局)ある程度みなさんに絵を今年中に作って見ていただきたいなという事もあるので、それこそ先生に一生懸命していただくためにも、早くこちらの会で、まとめていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。今日はありがとうございました。
- (会長)以上で終了します。今日はありがとうございました。

次回：10月29日(月)19:00～

※1週間前までに「テーマのバージョンアップ」、「拠点の中に必要なもの」について提出